



# 郵政産業ユニオン TOKYO

● 発行 ●  
 郵政産業労働者ユニオン  
 東京地方本部  
 発行責任者 鶴島 一広  
 〒104-0031 中央区京橋3-6-3  
 京橋通郵便局 5F  
 TEL・FAX 03-3535-5447  
 piwutokyo@yahoo.co.jp

# 郵政各社 賃上げの体力はある ストかまえ交渉全開

最近、経団連や安倍内閣も「賃上げ」を言わざるをえなく、JP労組も6年ぶりに賃上げ要求をかかげるなか、郵政産業ユニオンは、第2回中央委員会で、会社に対し賃金引上げをはじめ、大幅増員、非正規社員の均等待遇と正社員化等を求め、ストライキを背景にたたかうこと決め、全国平均70%超でストライキ権を確立しました。



14春闘も本番です。東京地本は、2月21日、春闘要求と増員要求を支社に提出しました。2月14日、本部は賃金引き上げ、大幅増員、正社員化と均等待遇等を求める14春闘要求書を各社に提出し、確立したストライキ権を背景に交渉を展開しています。

**たたかひなくして前進なし**

連合組合は、5年ぶりに「1%以上のベースアップ」を要求し、政府や財界の「賃上げ」にマスコミも「ベアか一時金かが焦点」などと報道しています。この背景には、長年の賃下げと社会保障

4,200億円に上方修正すると報道発表しました。賃上げの体力はあります。  
**深刻な人手不足**  
**職場要求かかげて**  
 人手不足は、長時間過密労働となり交通事故や郵便事故を引き起こし、サービス低下を招いています。職場からみんなで大幅増員の声をあげましょう。

改悪による生活苦、目前の消費税の引き上げへの労働者の不満と怒りがあり、同時に「個人消費の回復でデフレ不況の回復を!」「内部留保の活用で賃上げを!」との私たちのねばり強いたたかいがあります。もちろん、「総額人件費管理の徹底」(経労委報告)など財界は、賃上げ抑制策をかたくに堅持しており、たたかひなくして要求の前進はありません。



**賃上げは切実 賃上げ体力はある**

3年連続でボーナスが削減され、消費税増税、厚生年金保険料引き上げなどで賃上げは待ったなしです。2月14日、日本郵政は、今期の純利益を3,500億円から

会社とJP労組が進める「新人事・給与」制度は、労働者を競い合わせて人件費を削減するものです。なかでも、新・一般職は正社員を二分し格差を広げるもので反対しましょう。

非正規社員の増大は郵政だけでなく、日本の働く人の4割近くまで増えています。非正規社員の正社員化と均等待遇、正社員が当たり前の社会を求めてみんなで声をあげましょう。

今年の春闘は、これらの要求と合わせ、安倍政権の、「世界で一番企業が活躍しやすい国」づくりと、労働法制の大改悪を許さず、靖国参拝や集団的自衛権行使の容認など暴走政治にストップをかける春闘です。団結してみんなで行動しましょう。



▼居酒屋などで出される「お通し」は、お客さんのオーダーを厨房に「通

しましたよ」という意味があります。関西では「突き出し」とも言いますが、「先付け」とも呼ばれています▼「お通し」は有料のお店が多いのですが、断れないお店の場合「お通しは座席料です」という理由がほとんど。料理の代金には、座席料も含むのでしよからおそろしい日本の商習慣です▼フランス料理では前菜の前に出される『アミューズブーシユ』は、コースの値段に含まれていることがほとんどです。イタリアではテーブルチャージとパングル代、サービス料をかねた『コペルト』。席に着くなりいきなり出てくる、パンやスナックの盛り合わせも『コペルト』に含まれます▼「お通し」についての調査では、価格には7割・質には5割の人が不満を持っているという結果も。江戸時代に商慣習として生まれ、庶民の暮らしに定着したと言われている「お通し」もちょっと不満が多過ぎませんか。

(T・T)

# 警報出てても

## 郵便屋さんには対象外

### 都内 大雪で労災続出

いつも

昨年夏は猛暑、2月には記録的な大雪が首都圏を襲いました。2週連続の大雪は道路を寸断し、孤立集落、農作物被害や死者をも出しました。この大雪被害から政府や行政の支援が求められていると同時に今後の雪対策の見直しが急がれています。



東京23区や多摩地方も、大雪警報が発令され、電車の脱線事故や物流がストップするなど都民生活を直撃しました。

都内の各郵便局でも雪による外務員の労働災害が8日だけで13件も発生しました。(会社発表)

その概要を見ると、発生時間は午前10時30分から午後9時40分の間で、通常配達から混合配達、ゆうパック配達と外務作業全般で発生しています。けがの状況は骨折や打撲、捻挫で1日から30日の休業込みとなつています。

発生状況を見ると、「バイとサービス・品質管理に

今回のこの大雪に対し

て、都内の各郵便局や東京支社でどのような対策がとられたでしょうか。

各郵便局の外務労働者に聞くと「午前中外務作業を見合わせた」「徒歩で出かけた」「4輪で配達」などまちまちですが、局の対応・指導は「しばらくは待機」「午前中配達禁止」「気をつけて配達するように」「支社の指導は配達するように」と言われた局もあれば「指導はない」と指導にも巾がありません。

これだけ大きな会社組織でありながら、社員の安全とサービス・品質管理に



する統一的なマニュアルは無いのか不思議です。今回の大雪だけでなく台風や大雨などで気象庁は警報を発令し「外室は控えるように」との注意を出しても郵便屋さんは対象外なのかいつも無視されているようです。社員は郵便を配達するという使命感を常に持っているだけに危険を感じながらも配達に出してしまいます。それだけに会社は、社員に任せるだけでなく使用者としての社員に対する安全配慮が強く求められているように思います。



## 同じ条件 同じ仕事

でも? 格差!

### 50人で学習・決起集会

2月16日、14春闘本番を前に、郵政に働く非正規労働者の現状を正しく把握し、均等待遇と正社員化のたたかいを前進させようと、各支部から50名の役員、組合員が学び、春闘決起を誓い合いました。

郵政非正規センター(ゆい)の稲岡次郎さんを講師に招いての学習会では、14春闘が労働者の賃上げと共に安倍政権の暴走「憲法を変えて「戦争する国」づくり」に反対し労働者派遣法をはじめ、労働者を保護するこれまでの労基法、労働法制改悪を許さないたたかいであると強く感じました。

郵政の非正規労働者が、夏期や年末年始の季節的・補助的労働から80年代の団地ママさん配達をへて徐々に増え始め、90年代の財界の安上がりな労働力政策とともに、本格的な非正規雇用が始まり、現在20万人弱の非正規労働者が業務を支えている経過と背景を実感しました。

日本で最大の非正規労働者を抱える郵政では、ほとんど同じ仕事をしているにもかかわらず賃金や労働条件で大きな格差が生じている実態が報告され、均等待遇を求めるたたかいの重要

性を学びました。

特に、日本の非正規労働者が財界の意向で今では4割近くにまで拡大され、非正規社員の低賃金と劣悪な労働条件が正規社員の労働条件を低下させていることから、正規・非正規労働者が力を合わせてたたかうことの重要性を感じました。(H)

#### 当面の行動日程

- 3月2日(日) マーチインマーチ
- 3月3日(月) 本社前集会・東京地本春闘キャラバン
- 3月8日(土) 原発のない福島を! 県民大集会
- 3月8日(土) 12日(水) 福島連帯キャラバン
- 3月9日(日) 原発ゼロ大統一行動
- 3月12日(水) 15日(土) 福島連帯キャラバン
- 3月14日(金) ピースサイクル
- 3月15日(土) 経団連行動
- フクシマを忘れな
- い! さよなら原発集
- 会